

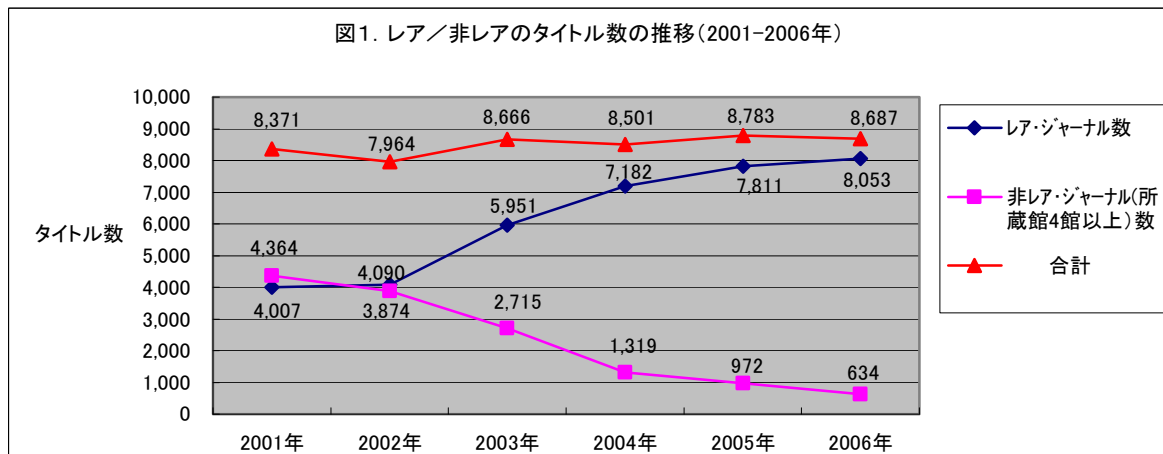
外国雑誌センター館活動評価(2006年度版)

外国雑誌センター館(以下「センター館」という)の活動評価として、2006年4月現在の各館データを集計し、センター館の機能である「収集が困難あるいは国内の継続所蔵館数が3館以下の外国雑誌(以下「レア・ジャーナル」という)の収集」及び「文献複写サービスの提供」を中心に、過去6年間の推移を基に分析を行った。

根拠となるデータは、国立情報学研究所(以下「NII」という)の協力により毎年提供を受けているものである。

1. レア・ジャーナルの収集について

2001年以降の新規購入レア・ジャーナル数の累計は5,292誌で、レア・ジャーナルのタイトル数は増加傾向が続いており、2006年の全タイトル中の比率は92.7%となった。(図1)



所蔵館が1館のタイトル数は前年比で7%(373誌)増加、2館以上はすべて減少しレア・ジャーナル化が進んでいる。(図2-1)

図2-1. 所蔵館数別タイトル数の推移(2001-2006年)

所蔵館数	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
1館	2,238	2,324	3,752	4,828	5,294	5,667
2館	1,076	1,063	1,368	1,502	1,669	1,646
3館	693	703	831	852	848	740
4館以上	4,364	3,874	2,715	1,319	972	634
合計	8,371	7,964	8,666	8,501	8,783	8,687

2003年に新規購入のレア・ジャーナルが激増し、その中に多く含まれていた創刊誌が学術誌として定着した後、それらについては文献複写サービスの利用状況・到着率等の実績を評価した上で、必要なレア・ジャーナルを判断するという購入見直しが進められている。(図2-2)

図 2-2. 所蔵館数別中止タイトル数の推移(2002-2007 年)

所蔵館数	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	累 計
1 館	68	96	70	110	385	330	1,059
2 館	11	39	51	33	57	60	251
3 館	11	37	27	23	23	43	164
4 館以上	643	1,220	1,450	446	177	109	4,045
合計	733	1,392	1,598	612	642	542	5,519

非レア・ジャーナルが存在する要因として、外国雑誌の購入契約手続きが年単位であること挙げられる。新規誌選定・センター館間の重複調整(作業 1 年目)、購入開始(同 2 年目)、所蔵館数増加等による中止の検討(同 3 年目)、購入中止(同 4 年目)と年単位での対応が必要で、各館は継続的にこれらの見極め作業と状況に応じた購入中止に努めている。

また、今後購入を開始する雑誌についても、常に同様の検討が加えられていくことになる。

2. 文献複写サービスの提供について

(1) NACSIS-ILL(以下「ILL」という)複写サービスの利用動向

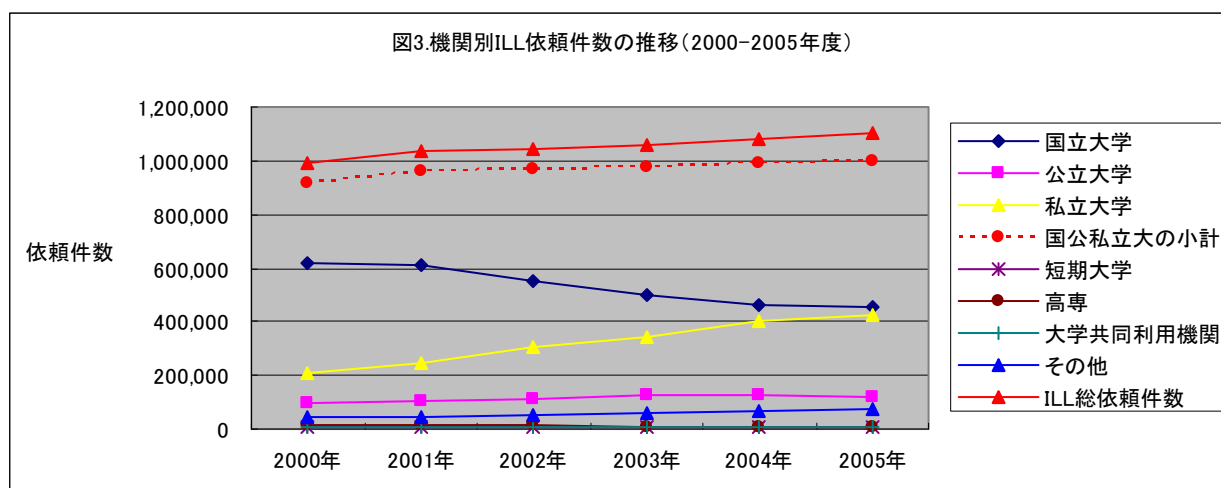
NII ホームページ「ILL 統計情報」によると、図書及びセンター館誌以外の雑誌も含む ILL 複写サービス全般の利用については以下のような動きが見られた。

① ILL 参加機関・組織数

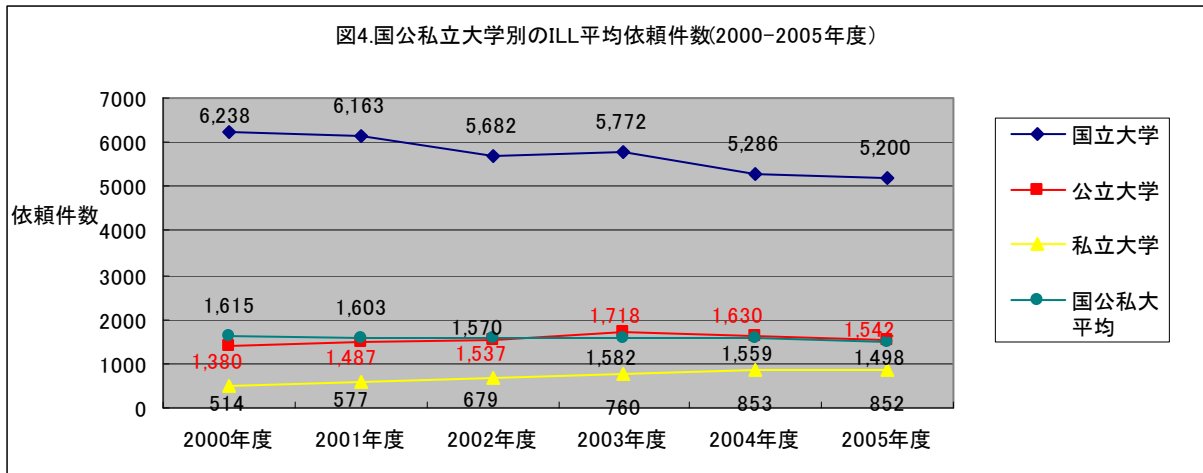
ILLシステム参加機関(大学・研究機関等)の数は、国立大学は統合が進み減少したが、公立・私立大学は加入数が徐々に増加している。また、参加組織(図書館・資料室等)の数は国公立大学とも増加している。これは、2004 年度の ILL 料金相殺制度開始で、ILL 業務の負担が軽減されたことによると考えられる。

② ILL 複写依頼について

国立大学の依頼件数は減少が続き 6 年間で 27%減となり、公立大学は 2004 年度に初めて依頼件数が減少に転じ、その傾向が続いている。私立大学の依頼件数は依然として増加しており、6 年間で 2 倍になっている。(図 3)

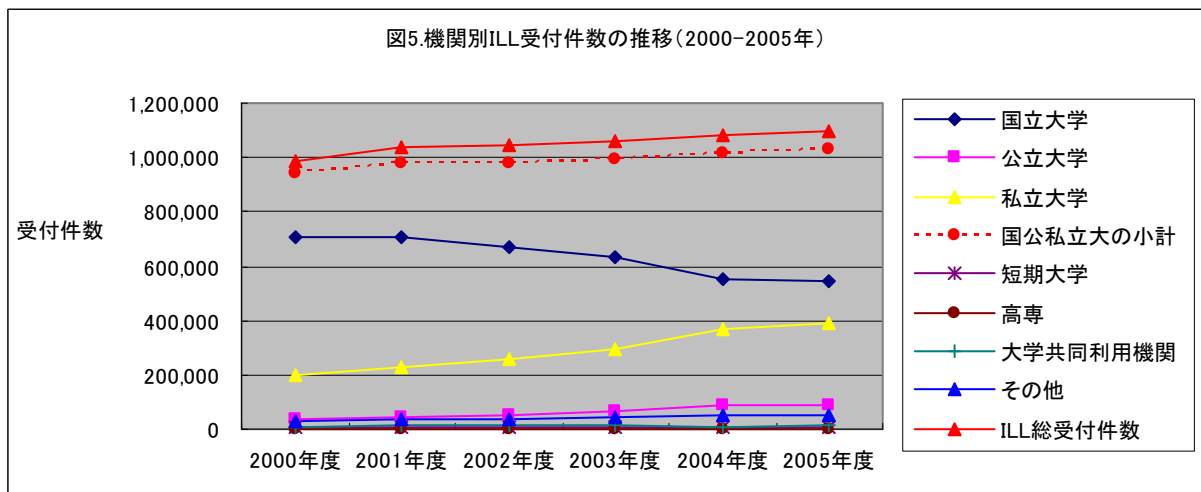


国公立大学毎の1参加機関当たりの依頼件数を見ると、私立大学は件数が少ないが母数(参加数)が多いため、全体として依頼件数が増加傾向となっていることがわかる。(図4)



③ILL 複写受付について

ILL 複写の総受付件数は依然として増加傾向にあるが、大学毎の受付件数では、国立大学は6年間で22%減、公立大学では140%増、私立大学は97%増という顕著な差異が見られ、受付件数の割合の変化を示している。(図5)



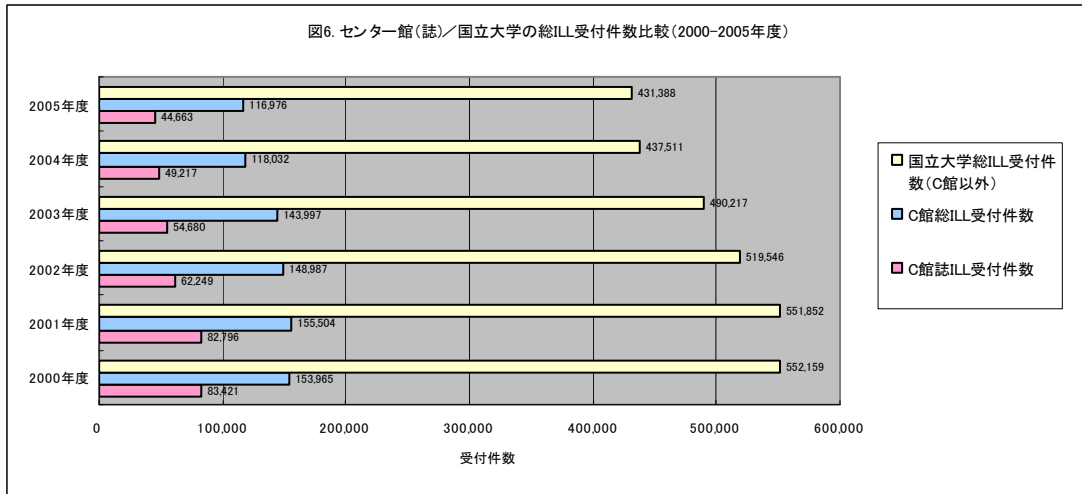
学術雑誌を取り巻く環境は、電子ジャーナルの普及の他に、オープンアクセス化、学術機関リポジトリの進展等、ILL を経由せずに文献の入手が可能な環境整備が進んでいるが、私立大学では全体としてはそのような利用環境について整備途上であると思われる。

なお、レア・ジャーナルの場合はこのような動きからやや離れているケースがあるため、ILL による文献入手の需要は続くと思われる。利用されるレア・ジャーナルの探索・収集が今後も必要である。

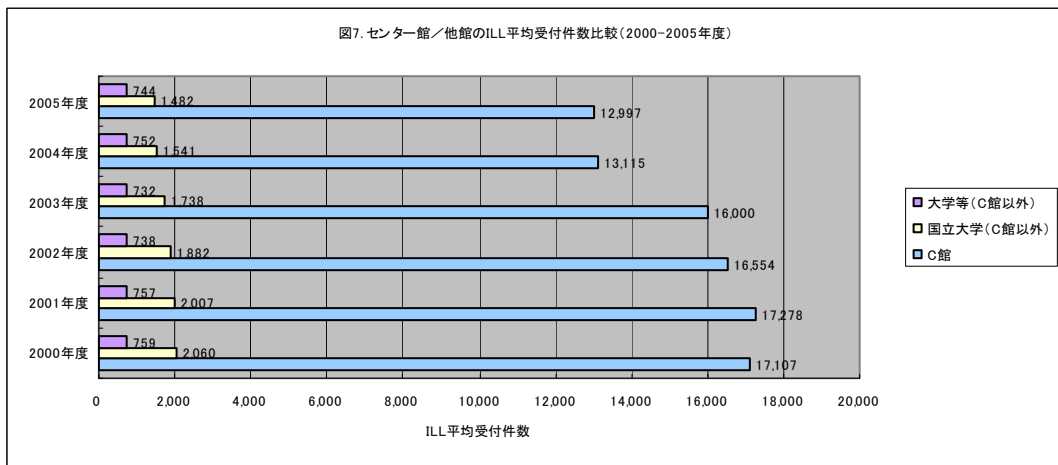
(2) 文献複写サービスにおけるセンター館の機能

国立大学およびセンター館の ILL 総受付件数は減少傾向にあるが、その中で 2000 年以降国立大学

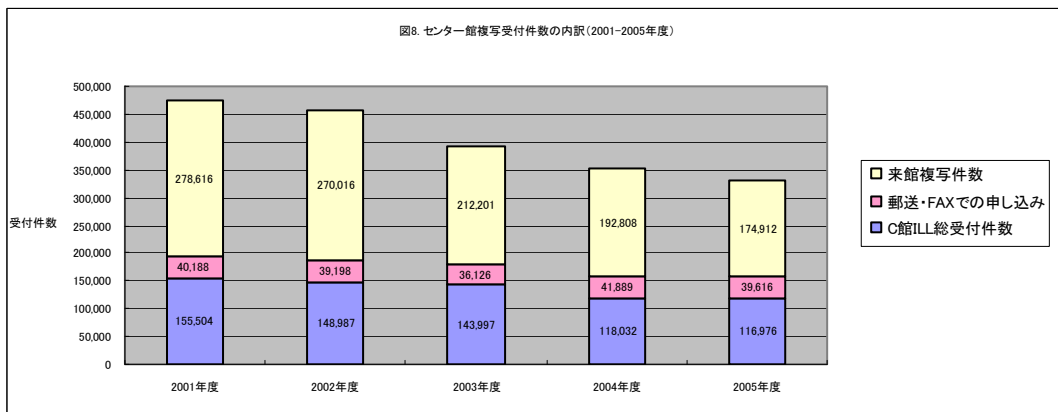
(2000-2005 年の平均組織数 288)の総受付件数の 20%余りはセンター館 9 館で処理している。国立大学全組織内での館数が 3%の存在であるセンター館が一定の役割を果たしていることがわかる。(図 6)



また、過去 6 年間の平均 ILL 受付件数を、大学等(国公立大、短大、高専、大学共同利用機関)、国立大学(センター館以外)、センター館の 3 者で比較した場合、1 組織当りの平均受付件数に大きな開きが見られた。このことは、センター館が ILL 複写サービスにおいて中核的な存在となっていることを示すものである。(図 7)



ILL 以外の方法(郵送、FAX、来館利用)によるものは、センター館の全受付件数の中で毎年 60%を超えており、センター館の複写サービス機能が活用されていることわかる。(図 8)



また図8では、郵送・FAXによる受付件数はほぼ一定しており、ILLシステムを利用できない依頼館からの需要が常に存在することがわかる。

主題分野によっては雑誌が非常に高額であるために、他館での新規購入あるいは購入の継続が困難な状況が生じており、このような雑誌を安定的に購入し ILL 複写サービスで提供することも、センター館の重要な機能となっている。

(3)ILL 複写サービスにおけるセンター館雑誌の存在

所蔵館が1館のセンター館誌の受付件数は次第に増加しているが、2館以上のタイトルについては年々減少傾向を見せている。(図9)

図9. 所蔵館数別 ILL 受付件数(2000-2005年度)

所蔵館数	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
1館	11,523	13,120	13,650	21,543	21,211	25,374
2館	12,881	12,137	11,987	10,871	12,835	10,281
3館	6,969	7,171	7,262	6,794	6,793	4,134
4館以上	52,048	50,368	29,350	15,472	8,378	4,874
合計	83,421	82,796	62,249	54,680	49,217	44,663

センター館誌の ILL 受付件数に占める、レア・ジャーナルの受付件数と比率は、この6年間で31,373件(37.6%)から39,789件(89.1%)へと上昇している。必要とされるレア・ジャーナルの収集とその提供という機能は、利用者の要求に応じていると考えられる。(図10)

図10. レア/非レアのILL受付件数比較(2000-2005年度)

